

組合共同 事業の紹介

[共同宣伝]

「温泉の力・四季の赤湯・

元気な赤湯」を全国に発信



ゆーなび からころ館



55プランキャンペーン

組合名	赤湯温泉旅館協同組合
住所	〒999-2211 南陽市赤湯754-2
電話番号	0238-43-3114
FAX番号	0238-43-7520
設立	昭和43年3月
出資金	257万円
組合員	14名
主な業種	旅館業
ホームページ	http://www.akayu-onsen.com/

背景と目的

寛治7年(1093年)に、八幡太郎義家の弟義綱が発見し、戦で傷ついた体を温泉に入れたら傷が治り、湯は真っ赤に染まったことから「赤湯」と呼ばれるようになったといわれている。その後、上杉藩の箱湯として保護され、藩公認の遊興の地となり、奥州街道の宿場町として大変栄えた。

昭和43年3月に原材料及び資材、備品等の共同購入、赤湯温泉の安心・安全とより良いサービス、共同宣伝、共同誘客等を目的に20名で法人化。昨年には、青年部を設立し、おかめ会(女将会)、組合と3本柱で、事業を実施している。

事業・活動の内容

平成20年10月に、赤湯の観光・交流の拠点として「ゆーなび からころ館」がオープン、赤湯温泉旅館協同組合が指定管理者となり、観光やイベント情報の提供、南陽市や赤湯の特産品の販売をしている。正面入口脇には、足湯があり手軽に温泉気分を楽しむことができる。2階は、展示・イベントスペースになっており、市民の発表の場となっている。入口脇には、足湯があり手軽に温泉気分を楽しむことができる。同時にホームページを立ち上げ、全国に県内の情報を発信している。月1回「Fマルシェ」と称して、産直販売を実施。

また、南陽市を含めた村山、置賜10市12町とJR東日本で組織する「やまがた花回廊キャンペーン」実施、白石市、七ヶ宿町、高畠町、南陽市結ぶ113号線自治体で組織する「みちのくおとぎ街道推進会議」等の団体と連携を取りながら誘客を図ってきた。

東日本大震災では、いち早く対応し、二次被災者の受け入れはもとより行政や関係団体からの支援を得て、福幸支援キャンペーン「赤湯から元気!! 55プラン」と題して、一泊2食付きで5,500円で提供した。

また、赤湯温泉にちなんだ写真を募集し、来館者の投票で順位を決める「赤湯温泉フォトコンテスト」を行い赤湯の四季の良さをアピールしている。

効果

震災に伴う風評被害の影響も心配されたが、空間放射線量測定結果の発表や「55プラン」の効果もあり、大きな落ち込みは見られずリピーターが増加している。今後も、温泉の力・四季の赤湯・元気な赤湯を全国に発信していく。

南陽市も箱根駅伝等で活躍した選手を市職員に採用、スポーツを通して元気な街づくりを目指しており、第57回山形県縦断駅伝では、南陽・東置賜チームとして初優勝をしている。